

吉ヲ引起シテ、命ヲ助ルノミナラズ、様々ノ引出物ヲシ酒ナンドヲ勧テ、京ヘ連テ上リタレバ、彌八六波羅ノ燒跡へ行、正シク此ニ被埋タリシ物ヲ、早人ガ掘テ取タリケルゾヤ、徳ツケ奉ント思タレバ、耳ノビクガ薄ク坐シケルト欺テ、空笑シテコソ返シケレ、中吉ガ謀ニ道開ケテ、主上其日ハ篠原ノ宿ニ著セ給フ。

〔倭名類聚抄三目〕町 孫恤曰、町音聰乃挺耳垢也。和名美。

〔箋注倭名類聚抄二目〕醫心方同訓、按今俗呼美々乃阿加久曾○中廣韻同、按玉篇町聰耳垢也、孫氏蓋依

之、那波本是條收在耳目類、眵涕淚之後似是、然病源候論云、耳聰町聰者、耳裏津液結聚所成、人耳皆有之、輕者不能爲患、若加以風熱乘之、則結輒成丸核、塞耳亦令耳暴聾、又葛氏方有治町聰塞耳而強堅不可得挑出方、故源君收在于是也、其在耳目類者、疑係那波氏所改、

〔類聚名義抄二目〕町聰音項下乃給反、人體見人體町聰ミ・クソ、ノヤマヒ、

〔伊呂波字類抄二目〕町見人體、體同

〔增補下學集支體上二目〕町

〔醫心方五治耳〕町聰方第五

病源論云、耳町聰者、是耳裏津液結聚所、成人耳皆有之、輕者不能爲害、若加以風熱乘之、則結輒成丸核、塞耳亦聽耳音、暴聾、葛氏方治町聰塞耳而強堅不可得排出方、搗曲蚯蚓取汁以灌耳中、不過數灌、之皆出千金方
同之

〔兎園小説四〕耳の垢取

慶長年中、唐山の漂流船一艘、水戸の浦に著たり、いづくの者ぞと問ければ、大明太原縣の者なりとて、七人乗組なり、此よし威公に申上しかば、そのものどもに尋させ玉ふやう、汝等國に歸りたくおもはゞ送り遣すべし、此國に居りたくば置くべしと仰下されければ、御國に居りたきよし